

東北地方本部 宮崎和孝執行委員あいさつ (要旨)



私自身、国労加入まで5年の歳月がかかった。組織拡大もあきらめずに、仲間を増やす行動に取り組みたい。

7月1日に組織として東北地方本部は発足した。7月5日には結成大会を開催、9月20日には第一回の地方大会を開催して新役員を選出し新たな組織は動き出した。東日本エリア本部の傘下で首都圏と東北との2地域の位置づけに

なっている。財政の流れは旧地方本部を主体にしている。東北地方本部で開催する執行委員会は東北全体を協議する場にした。会社との交渉は窓口が基本となるので旧3地方本部が主体になるが東北本部の消失と細分化された事業本部体制、組合員の減少を考えると東北本部が主体になっていくものと考えられる。秋田で業長をやってきた経験を活かしていきたい。会社との交渉を学んだことを、今後進んで伝えていきたい。会社と長年交渉を行ってきた先輩方の技術を勉強し、自分のものとしてこれからの組合運動の担い手になるべく努力し続けることを申し上げ挨拶とする。

千葉信吉一関市議会議員あいさつ (要旨)



盛岡地区本部総力を挙げて、一関市議会議員選挙にご尽力いただいた結果、26人の定数で27人が立候補する少数激戦の中、勝ち抜かせていただいた。現職の少ない中で一関地域分會を中心とした取り組みに感謝を申し上げる。

組織としてJRの職場をしっかり守り、風通しの良い職場を作っていく取り組みを今後とも継続していただきたい。地域公共交通の問題について、盛岡では地方ローカル線は全て特定線区になっており、地元大船渡線も自治体として継続していくことが基本であるが、利用していない状況をどう守っていくかが課題

である。議員団として取り組んで行くが現職の当該組合員の皆さんと一緒に議論しながら取り組みが必要がある。少子高齢化であり高齢者、子供たち、障害者を持った人たちの足を守る事が大事。しっかりと世の中の課題、暮らしの向上の取り組み、市民・県民が暮らしやすい取り組みを進める。自治体の底辺をしっかりと固めていき、県・国に物申していく。向こう4年間、議場で発言させていただくことになったので活用してほしい。本大会で、組織拡大が図られ安全な鉄道網を築き上げるよう議論してほしい。

東北地方本部・執行部の答弁

(東北地方本部)

▽P社、直轄とも事故が多発している。直轄作業による退避遅延も連続しているが、現場に行く前に会社上司による声掛けも対策のひとつになっている。安全対策について機会あるごとに会社に申し入れていく。

▽執行部

▽一関市議会議員選挙の取り組みについて、事務所を守ってきた一関地域分會の取り組みに感謝申し上げる。一ノ関

▽平泉駅のインバウンド対応は、タブレットに多言語対応アプリが入っているの活用してほしいが厳しい対応になっていることは協協等で伝えていく。Suicaエリアの対応も引き続き会社に求めていく。

▽急激な世代交代に人材育成・技術継承が追い付いていない状況だが、会社が責任をもってやること。ルールの成り立ち・背景についても教育が必要。組合員からもその様な視点で若手社員に伝えてほしい。

▽短日数勤務についてグルー

書記長集約 (要旨)



業務の融合化に伴い会社施策の検証を強めていく TUNAGIアプリの積極的な登録・活用を

【労働条件改善・権利確立、安全・安定】輸送確立の闘い

JR東日本は来年7月に2本部・10支社体制を見直し、36事業本部とするとしている。そして、「モビリティ」と「生活ソリューション」の二軸経営を推進するとしている。「職務能力給」や「能力昇給」は社員間の分断と競争を煽ることになり、公平・公正な運用を労働組合の立場から求め続けていく。JR貨物においても、「鉄道輸送を基軸とした総合物流企業グループ」を目指すとして、全系統にわたる合理化・効率化施策が進められている。「評価」を軸にした「人事・賃金制度」は職場を歪ませ、社員間の競争を煽っている。厳しい職場実態の中で会社の将来展望に失望し、若年退職を選ぶ社員も少なくない。技術継承・人材育成は労使の枠を超えた課題であり、JRを次代

につなげていくため労働組合としてのチェック機能を発揮していく。安全・安定輸送の確立のため、誰もが安全で安心して働き続けられる職場でなければならぬ。引き続き「仕事総点検運動」「安全総点検運動」を取り組み、会社施策を検証する中から、課題解決に取り組みを強めて行く。

【2026春闘の前進をめざす闘い】

JR東日本においては経営状況がコロナ禍前を上回るような傾向にあるが、2021春闘での昇給係数半減はいまだに回復が図られていない。JR貨物においても、激甚化する災害により経営は安定せず、社員・家族に犠牲を強いる経営施策が続けられている。賃金改善のみならず、職場における課題の改善・解決、労働条件改善をしっかりと取り組み、職場から労働組合の「顔」の見える取り組みを強

化する中から組織拡大につなげていかなければならない。確立された方針の実践に向けて、地方からも取り組みを強めて行く。

【組織強化・拡大の闘い】

JR本体内、出向先で若手社員やプロパー社員と交流を深めている組合員、役員を奮闘がある。本部が提起するプロジェクト型の通信アプリ「TUNAGI」を活用することにより、まずは国労を、労働組合を知ってもらうことが第一歩であると考えている。組合員の積極的な登録を心からお願ひする。JR世代組合員に「財政・組織・運動」をどう継承していくのが私たちに課せられた大きな責務である。そのためにも、私たちは、2025年7月以降の二地方本部体制を選択し、「選択と集中」を図ることとした。全組合員が「当事者意識」と「遊び心」を持って、「もう一人の

青年、もう一人の女性」の拡大に全力を挙げよう。

【地方交通線の維持・存続、公共交通確立の闘い】

少子高齢化が進行する中で地方における輸送モードをどうしていくのかは、地域住民の足を守るという視点から重要な問題である。国鉄を前身とするJR会社に公共交通機関としての使命と責任をどう果たさせていくのかが私たちに問われている。貨物輸送においても「高速・大量輸送」に適した鉄道へのシフトが求められている。東日本大震災の教訓を踏まえ、迂回線区確保などが持つ特性・使命を十分に考慮する必要がある。改正「交通政策基本法」では、「人口の減少に対応しつつ地域社会の維持及び発展に寄与するものとなるようにすべき」との基本理念が追加されており、実現に向け各県交運

めていく。

▽駐車場の除雪問題は、LiViTと東北地方本部との年末手当交渉の中で付帯事項として現状を伝えていきたい。

より欠席)

代表して千葉信吉一関市議会議員が、議会で取り組みや選挙への謝辞と協力要請等を述べた。(別掲)なお、議員団総会も開催された。

選挙への謝辞と協力要請

議員団2人が参加

2025年度 地区本部委員3人を選出

盛岡支部2人
西野 利行(盛岡地域分會)
浮中 明(盛岡地域分會)
青森支部1人
小原 典昭(青森地域分會)

労働問題からサラ金問題、財産相続問題など、何にでもご相談ください。

無料相談

労働者生活相談窓口のご案内

相談日: 2026年1月 8日(木) / 3月12日(木) / 5月14日(木)

相談時間: すべての相談日で 13時~15時

受付電話: 019-622-5021 国鉄労働組合盛岡地区本部

相談場所: 盛岡市内丸6-15 EST21ビル もりおか法律事務所

弁護士: 佐々木 良博

※ 相談者氏名、相談内容等については、外部には一切公表致しません。(秘密厳守)

一般財団法人 国鉄労働会館 盛岡地方部

労働者生活相談

労働問題からサラ金問題、財産相続問題など、何にでもご相談ください。

無料相談

労働者生活相談